**マルチハザードに対応可能な耐複合災害建築合同小委員会**

**（構造・環境工学・建築計画委員会）　第１回委員会　次第**

**日時：2023年５月２９日（月）13:00-15:00（予定）**

**場所：オンライン会議（zoom）**

**小委員会委員**

　主査：久田（工学院大）、幹事：小山（東京大）、伯耆原（早稲田大）、佃（東北大）

　委員：五十田（京都大、構造委員会委員長）、三浦（広島大）、壁谷澤（東京都立大）

　　　　秋元（ 芝浦工業大、環境工学委員会委員長）、長谷川（秋田県立大）、増田（芝浦工業大）

清家（ 東京大、計画委員会委員長）、大月（東京大）、岩佐（法政大）、

木内（国土技術政策総合研究所）、久保（山梨県富士山科学研究所）

**オブザーバー（WG委員候補）**

永野正行（東京理科大）、加藤孝明（東京大）、水谷国男（東京工芸大）、

安田 進（東京電機大、地盤災害）、大原美保（東京大学）、持田 灯（東北大学）

平山由佳理（工学院大）、神吉紀世子（京都大学、農村計画委員会）

越山健治（関西大学、都市計画委員会）

**連携：災害委員会・水害・土砂災害等による建築物等の被災調査マニュアル検討WG**

田村和夫（神奈川大）、藤本郷史（宇都宮大）、石原沙織（千葉工業大）

西嶋一欽（京都大）、村上正浩（工学院大学）、中谷岳史（信州大学）

浅井竜也（名古屋大）、有川太郎（中央大）、野口雄太（福岡大学）

二瓶泰雄（東京理科大）、竹林洋史（京都大学）

**■映像録画を撮らせて頂きます**

**■資料**

　０．次第

　１．合同小委員会関係者名簿（案）

　２．合同小委員会設置申請書・計画案（構造・環境工学・建築計画委員会）

　３．災害委員会WG設置申請書

　４．土木・建築TF（TF、災害連携WG、協力協定等）　<https://committees.jsce.or.jp/dkTF/>

　５．マルチハザードに対応可能な耐複合災害建築特別研究委員会・報告書・パワポ資料(2023.3)

　　　<http://kouzou.cc.kogakuin.ac.jp/Open/multi-hazard/2022-Report/>

　６．提言：激甚化する水害への建築分野の取組むべき課題～戸建て住宅を中心として～(2020.6)

　７．日本学術会議・小委員会報告書（暫定版）20230206

　８．2023 年度大会細分類・細々分類一覧

　９．新規WGの設置案、2021ガイドライン

**■議題**

**１．本小委員会の趣旨、関連委員会・WG等の紹介（30分程度）**

　　・参加者の確認（資料１）

・本小委員会の設置申請書・計画案（資料２）⇒所属等要確認

・適宜拡大幹事会を実施（久田＋３幹事＋３本委員会＋WG幹事など）

・連携活動：災害委員会「マルチハザードに対応可能な耐複合災害建築に関する検討WG」（資料３）

土木建築タスクフォース（災害連携WG、協力協定等：資料４）

 **⇒ファイル等の共用サーバが必要（学会ストレージは委員・WGメンバーのみアクセス可能）**

**２．参加者（委員・WG候補）による関連活動の紹介（40分程度）**

　　・関連活動・成果の紹介（参加者の自己による活動紹介）：

マルチハザードに対応可能な耐複合災害建築特別研究委員会（2023.3、資料５）

提言：激甚化する水害への建築分野の取組むべき課題～戸建て住宅を中心として～(2020.6、資料６)

　　　日本学術会議 土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会「流域治水に資する建築物の耐水設計検討小委員会」報告書（暫定版、2023.3、資料７）

**３．小委員会の活動（WG設置、シンポジウム開催、ガイドライン企画、大会等の発表など：40分程度）**

**・小委員会（４年間）：**３本委員会＋拡大委員（都市・農村計画等、土木・地盤工学・火山噴火等）

　　分野横断によるマルチハザードに対応可能な建築・まちの体系的・継続的な調査研究と成果公表

　　今年度の活動計画（案）：既往の成果収集、話題提供、年度末にシンポジウムを開催（仮）、など

　　隔月で開催（互いのメンバーはオブザーバー・録画参加可能）、話題提供（次回より２題づつ位）

　・**WGの設置（案）**：拡大メンバーの吸収と具体的な成果を目的とする二つのWGを設置する

　　・WG1「シンポジウム企画WG（仮）」:拡大メンバーを吸収、年度末のシンポジウム開催を企画など

　　・WG2「建築物の水害対策・復旧対応にむけたガイドライン検討WG（仮）」：これまでの建築物の水害の経験を踏まえて蓄積されつつある関連機関の対策に関する知見をまとめ、建築関係者に向けたガイドライン出版に向けた検討を行う（主査(案)：長谷川先生、資料09-2）

　　⇒WG設置は小委員会で申請書を作成、本委員会（構造・環境工学・建築計画）の承認が必要

**・建築学会大会での部門横断（マルチハザード・複合災害と対策等）での発表の場の新規設置（提案）**

　　・現在の大会は１２部門（材料施工、構造、防火、環境工学、建築計画、農村計画、都市計画、建築社会システム、建築歴史・意匠、海洋建築、情報システム技術、教育）に完全に分離されており、分野横断で発表・交流する場がない（資料８）。特に水害・土砂災害・火山噴火災害などは各部門の主な専門分野以外の場で発表せざるを得ないのが現状。

　　・久田＋共著者の事例：

　　　2022年大会「2021 年熱海市伊豆山地区の土石流による建築物の被害調査」

　　　　⇒「部門：構造、細分類：2.振動、細々分類：a.地震被害・震害評価」にて発表

　　　2023年大会「令和2年球磨川水害における建築物の被害調査と木造家屋の被害関数の検討」

　　　　⇒「部門：構造、細分類：1.荷重・信頼性、1.津波荷重・耐津波設計」にて発表

**・提案：構造・環境工学・建築計画委員会＋参加可能な本委員会で、大会期間中に合同発表枠を確保して梗概を募り、参加本委員会の関係者でプログラム編成を行う**

　　　⇒合同枠の案：「大会細分類・細々分類一覧」に「災害（または自然災害）と対策（分野横断）（仮）」などを新設し、梗概を募集する。大会発表の最終日の午後（投稿数が多い場合は午前も？）に構造・環境工学・建築計画部門のいずれかの部屋の枠を事前に確保し、参加する本委員会（構造・環境工学・建築計画＋α）では、プログラム編成の際に、その枠内にはできる限り発表枠を入れない（資料８）。本分野横断枠のプレグラム編成は本小委員会が担当する。

**⇒次年度から実施するには、参加する本委員会での審議・合意を得た後、学術推進委員会に諮る必要がある（９月頃まで？）。**

**４．次回の活動以降の話題提供、今後の活動に向けて、など：10分程度）**

　　**・次回の活動**（シンポジウム企画、WGの設置、話題提供、日程、など）

**・災害委員会「マルチハザードに対応可能な耐複合災害建築に関する検討WG」**

**第１回WGの開催**

日時　6/20(火) 17:30

場所　オンライン会議（Zoomミーティング）

<https://zoom.us/j/98551867365?pwd=MjBwSnN4V1p2NGUzNGU2Y1h2UFIrQT09>

ミーティングID: 985 5186 7365

パスコード: 632601

**・その他（関連事項の紹介など）**